

(11) 沖 縄



沖縄地域では、景気は緩やかに回復している。

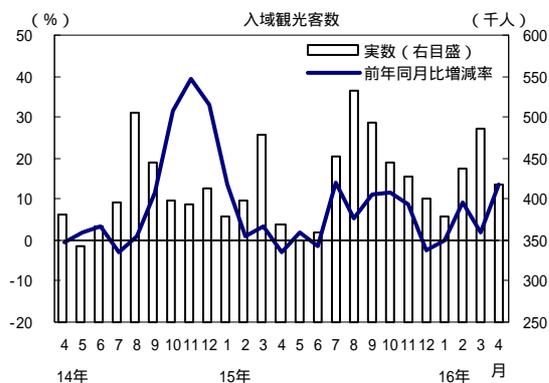
- ・ 観光は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点
なし。

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は増加している。

入域観光客数は、1月は、昨年運行されなかった台湾からのクルーズ船が運航されたことから、外国客は前年を上回ったものの、旅行商品の価格の高い年始が敬遠されたことや海外旅行の回復から、国内客が前年を下回り、全体ではおおむね横ばいとなった。2月はプロ野球キャンプの効果などから前年を上回った。3月は、修学旅行の増加などから前年を上回った。4月は、台湾からのクルーズ船運行による外国客の増加や、ゴールデンウィークの日並びの良さなどにより国内客も好調であったことから前年を上回った。なお、2～4月は各月の過去最高を記録している。また、1～3月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内のホテル、リゾートホテルとも前年を下回っているものの、高水準で推移している。



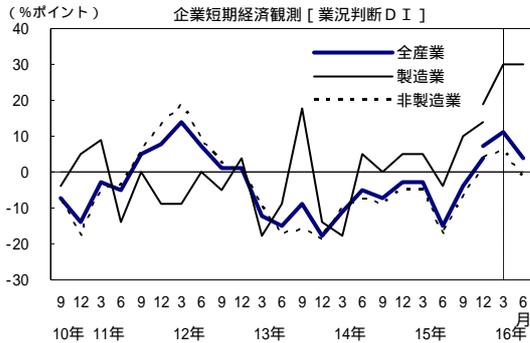
入域観光客数の動向

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
入域観光客数(千人)	1,077	1,476	1,275	1,302
前年同期増減率(%)	1.2	9.6	5.7	3.6

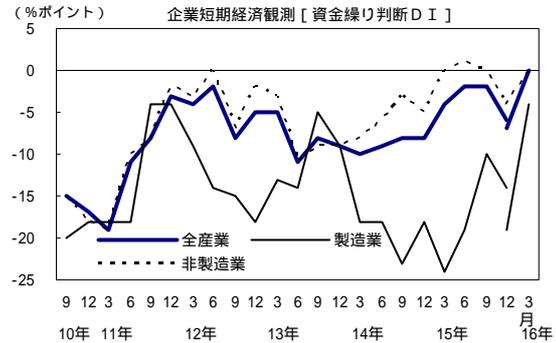
(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

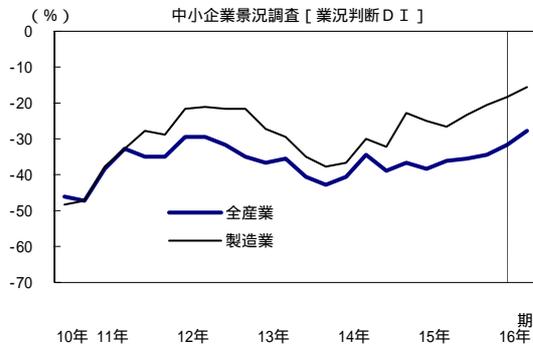
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
九州地区のDI。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「通信速度が高速で、かつ低料金の新サービスへの変更依頼が増加している。一方、4月からの電気通信事業法の改正で、サービス約款料金にとらわれない相対取引が認められ、価格が下がる傾向にあり、販売量は増えても売上増にはつなげていない(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

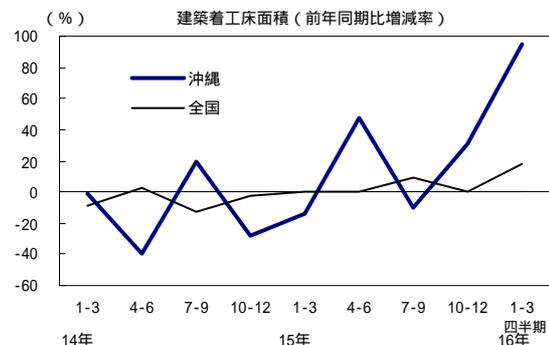
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	0.7 (0.8)	24.7
製造業	50.8 (5.0)	0.8
非製造業	4.4 (0.3)	27.4

(備考) () は前回 (12月) 調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

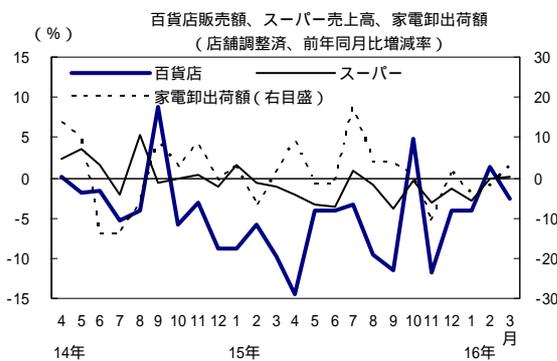
百貨店は、1月は気温が高めであったことから冬物衣料が低調で、前年を下回った。2月はうるう年により営業日数が増えたことに加え、催事により家庭用品や雑貨が好調であったことから4か月ぶりに前年を上回った。3月は、気温が低めに推移したことから、春・夏物が振るわず前年を下回った。

スーパーは、食料品が、BSEや鳥インフルエンザの影響を受けながらも、酒類販売自由化の効果等により、おおむね横ばいとなったが、気温の影響等により衣料品の動きが鈍かったことから前年を下回った。なお、全店ベースでは、18か月連続で前年を上回っている。

家電は、プラズマ、液晶などの薄型テレビや乾燥機能付き洗濯機などは好調で、前年を上回ったものの、他の家電製品の売行きが鈍かったことから、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（4月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

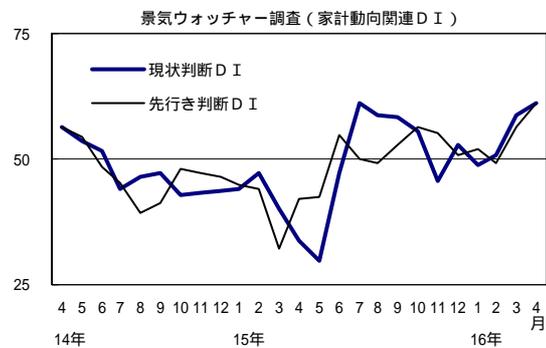
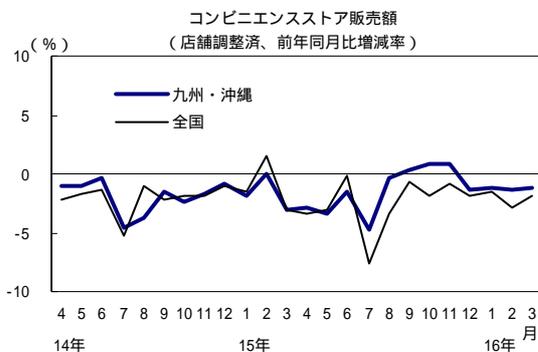
「春休みに入り、衣料品を中心とした売行き動向がより活発化している（百貨店）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
百貨店	7.7	8.0	4.1	1.9
スーパー	3.1	1.2	1.7	1.0
家電卸出荷額	1.8	8.9	3.0	0.9
コンビニ	2.6	1.6	0.0	1.2
景気ウォッチャー	36.8	59.5	51.4	52.9

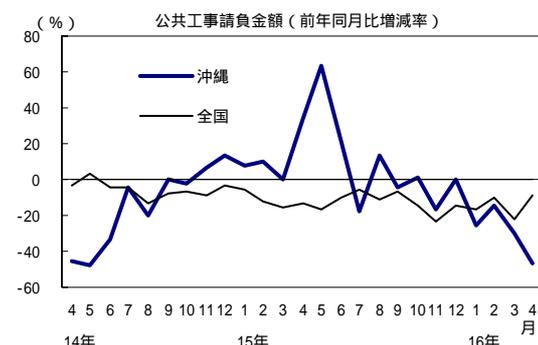
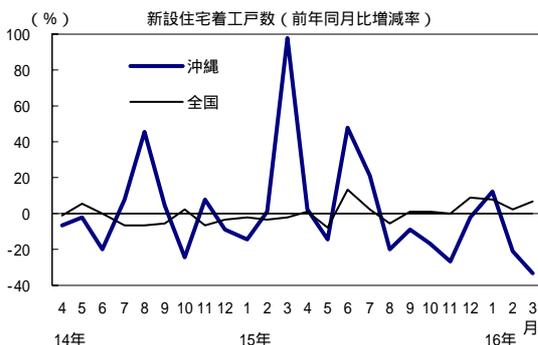
- (備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は沖縄銀行調べ。
 2. スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
 3. コンビニ販売額は九州・沖縄地区の値。店舗調整済。
 4. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲は前年を上回ったものの、貸家が前年を大きく下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

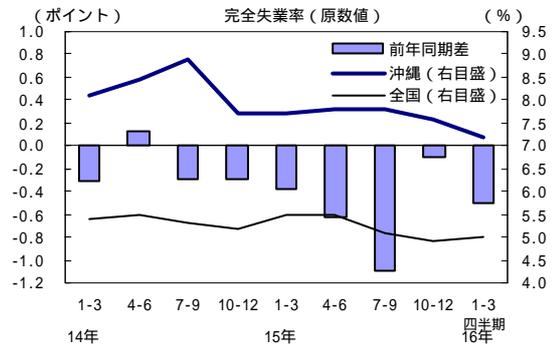
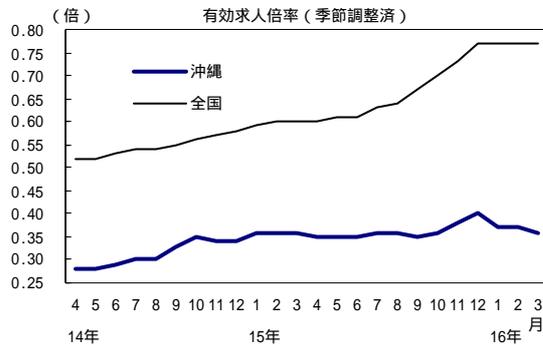


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県企画開発部統計課「労働力調査」により作成。

景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「観光業界の好調に支えられ、流通業界も持ち直しつつあるとのことであり、全体的に景況は良い(学校[大学])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	34	35	24	18	3
(前年比)	30.8	6.1	7.7	30.8	62.5
負債総額	121	173	43	184	0.3
(前年比)	117.9	138.2	49.9	11.2	98.2



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・4月の稼働率は、前年同月比で約6ポイント上昇しており、ゴールデンウィーク前の個人予約が好調となっている(観光型ホテル)

<先行き>

・景気の上向きとともに、熟年層を中心に旅行需要が大分活発化してきている(旅行代理店)

